

# 「苦勞したやつ」サヨナラ打

学習院 3-2 朋優学院

10回裏、無死満塁。学習院の4番渡辺健太(3年)に打順が回った。ベンチの滝沢拓也監督は渡辺を信じていた。「一番苦勞したやつだから」

打球がレフトに飛ぶ。三塁走者の鈴木淳一(3年)がタッチアップしてサヨナラのホームを踏んだ。今にも泣き出しそうな顔でベンチに戻った渡辺の頭を、やはり涙顔の滝沢監督がたたいた。「ナイスバッティング!」。あとは言葉にならなかった。

渡辺は昨年10月に右ひざ半月板を骨折、手術を受けて今年5月まで練習ができなかった。トスバッティングの球出しや道具の片づけなどをして、仲間の練習を

## 学習院・渡辺健太選手

支えた。

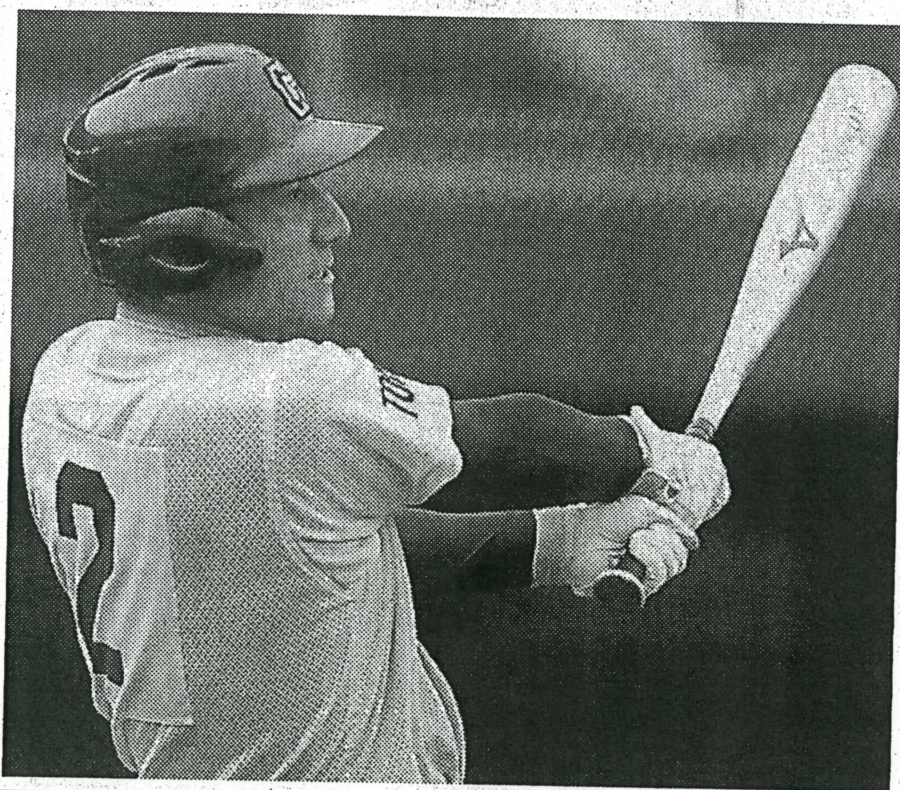
「チームに戻れるのか、戻ってもみんなは不満に思わないか」。軽い練習を再開した6月、練習試合の代打でヒットを打った。ベンチで迎える仲間の笑顔が、渡辺の不安を消し去った。

右ひざをかばうため、左の股関節も痛めてしまった。全力疾走はつらい。この試合も痛み止めを飲んで臨んだ。いい当たりは出るが、1回、3回、8回と好機に凡退し続けた。

投手の郭貴史(3年)とは中学の時からバッテリーを組む。「全力で止めてやるから思い切って投げてこい」。渡辺はマウンドに駆け寄っては笑顔で郭の尻をポンとたたいた。

最後の打席に入る前、郭が渡辺に駆け寄り、声をか

つ。「郭のためにも絶対に打つ」。渾身の二振りがサヨ



10回裏、サヨナラの左犠飛を放った渡辺(江戸川区)

けた。「今日はノーヒットだからノーマークだよ。気楽にいけ」。冗談めかして気持ちを楽しんでくれた。ナラ勝ちを呼び込んだ。「最高の仲間たちとずっと野球を続けたい」。渡辺は改めて強く思っている。

敬称略 (星野哲)